

障害病異をめぐる包摂／排除

Inclusion and/or Exclusion involving a History of “Ars Vivendi”

渡辺克典（立命館大学衣笠総合研究機構 准教授）

安部彰（立命館大学衣笠総合研究機構 准教授）

堀田義太郎（東京理科大学講師 / 立命館大学生存学研究センター客員研究員）

インクルーシブとは、これまで物理的・制度的な理由によって社会的参加が困難となった人びとへの援助・支援的な活動をすすめる枠組みとして位置づけられている。だがその一方で、「非-参加状態にある人びと」において、社会参加が果たせない中で自ら（これは個人だけを指すわけではなく、カテゴリーを指すこともある）の生をよりよくするための技法を築き上げてきた歴史や活動が存在している。その歴史の中では、参加-非参加状態を巡る包摂と排除との関係が、固定的であるわけではなく、流動的に変化・変容する様相を確認することもできる。この様相は、「非参加状態にある／固定化されつつある人びと」の代表的なカテゴリーとされる「障害病異」におかれた人びとにおいて確認される。こういった「生の技法」の集積と考究は、インクルーシブをめぐる〈学=実〉の連関において、それを再帰的／反省的にとらえるために不可欠である。

（「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究」基礎研究チーム）